

令和7年度 東京都立八王子東高等学校 学校経営報告

校長 山本 勇

1 今年度の成果

(1) 進学指導重点校としての数値目標の達成状況

- ① 難関国公立大学（東大・京大・一橋大・東科大・国公立医学部）合格者数＜現役15名以上＞
（R2=15名、R3=9名、R4=16名、R5=16名、R6=12名） ➡ R7実績10名
- ② 国公立大学合格者数＜現役120名以上＞
（R2=112名、R3=103名、R4=112名、R5=119名、R6=122名） ➡ R7実績110名
- ③ 大学入学共通テスト受験者のうち5教科7科目型受験者数＜在籍6割(192名/320名)以上＞
（R2=211名、R3=199名、R4=213名、R5=214名、R6=220名） ➡ R7実績200名
- ④ 大学入学共通テスト（5-7・6-7型）全国平均上回り率1.25以上の得点者＜75名以上＞
（R2=66名、R3=52名、R4=52名、R5=69人、R6=73名） ➡ R7実績61名
- ⑤ 入学者選抜の最終応募倍率＜推薦：3.0倍/一般：1.5倍＞
（R4=1.57/1.28、R5=2.27/1.36、R6=2.03/1.52） ➡ R7実績1.52倍/1.22倍

(2) その他の数値動向

- | | | |
|--------------------|----------|------------|
| ① 在校生の学校満足度 | R6 85% | ➡ R7 88% |
| ② 在校生の授業満足度 | R6 86% | ➡ R7 90% |
| ③ 在校生の探究活動に対する満足度 | R6 80% | ➡ R7 85% |
| ④ 部活動加入率 | R6 94.3% | ➡ R7 97.1% |
| ⑤ 大学等進路決定率 | R6 81.5% | ➡ R7 80.3% |
| ⑥ スクールカウンセラー年間相談件数 | R6 349件 | ➡ R7 398件 |

2 今年度の取組と自己評価

① 学習指導（評価B）

全ての生徒が、全ての教科・科目に全力で取り組み、幅広い教養と総合的な学力を身に付ける。

- ・各教科・科目の特性を踏まえて、生徒が自ら主体的に取り組む授業づくりを推進する。
- ・主要教科については、大学入学共通テストで8割以上を得点できる水準の授業を確立する。
- ・深い学びを実現するために、ICTの利活用や協働学習を取り入れた授業を展開する。
- ・教員相互の授業参観や生徒による授業評価等を活用して、継続的に授業の工夫・改善を図る。

➡何よりも日々の授業を充実させることに全教員が取り組んでおり、生徒の授業満足度も向上している。しかし、大学入学共通テストで8割以上得点した生徒の割合は若干低下しており、引き続き、授業や講習等を通じて生徒の確かな知識や思考力、判断力、表現力等を総合的に高めていく必要がある。ICTの利活用や協働学習は定着しており、授業内の諸活動だけでなく、予習・復習の徹底や適切な課題の提示など、授業を軸とした学習活動の一層の充実が課題である。

② 進路指導（評価C）

生徒一人一人の希望進路を実現し、進学指導重点校に求められる数値目標を達成する。

- ・全教員が3年間の進路指導計画を共有し、関係する生徒の進路実現を手厚くサポートする。
- ・進路指導部と学年、教科の連携を図り、最後まで「高い志」を完遂できる生徒を育成する。
- ・難関国公立大学等への進学を意識させ、国公立二次試験をピークとする受験指導を推進する。
- ・一般入試を基本としつつ、探究活動の成果を活かした総合型選抜等への挑戦も支援していく。

➡進路指導部を中心に学年・教科が連携し、最後まで生徒の「高い志」をサポートする体制を維持したが、難関国公立15の数値目標には届かなかった。特に一橋大、東科大が想定を下回ったことが大きな要因である。現役国公立大合格者は計110名と、全体として生徒はよく頑張った。総合型選抜での国公立合格者が初めて2ケタ(10名)に乗った点も評価できる。引き続き、最上位層の育成と国公立フル型を前提とした教科指導に一層力を入れていく。

③ 探究活動・国際理解（評価A）

探究活動を学びの軸に据え、グローバル社会を生き抜く思考力・判断力・表現力を育成する。

- ・探究部を中心に探究学習の内容や指導方法を深化させ、校内研修等で教職員の共通理解を図る。
- ・専門機関や外部との連携を活用し、生徒の知的好奇心を刺激する諸活動を充実させる。
- ・探究活動等の成果を内外での発表につなげ、各種コンテスト等にも意欲的にチャレンジさせる。
- ・グローバルな視野を広げるため、高雄高級中学との交流や海外研修旅行の一層の充実を図る。

➡探究部を中心に探究活動が活発に展開され、生徒が自らの成果を発信する機会も増えており、生徒の探究活動に対する満足度も向上している。また、総合型選抜等で探究の成果を活かす生徒も増えてきている。国際交流では、高雄高級中学との相互交流が定着し、カナダ(トロント)研修旅行では探究と民間外交的な要素を入れた特色あるプログラムを実施した。

④ 生活指導（評価B）

基本的な生活習慣を確立させ、自他を尊重する、良識ある社会人としての自立を図る。

- ・社会人として守るべき基本的なルールやマナー、交通安全等に関する指導を継続的に実施する。
- ・多様な価値観を認め合う環境を構築し、いじめや問題行動を防止する指導を徹底する。
- ・生徒の体力向上と健康の保持増進を図り、薬物乱用防止等の健全育成に係る指導を実施する。

➡多くの生徒は良識ある行動がとれるが、社会人としてのルールやマナー、交通安全の徹底については繰り返し指導を行っている。お互いを尊重し、協力し合える人間関係が構築できるよう、いじめ防止やSNSの適正利用等についても継続的に注意喚起を行っている。

⑤ 特別活動・部活動（評価B）

他者との協働や帰属意識を醸成し、互いに高め合う集団づくり、チームづくりを実現する。

- ・生徒会や委員会等における生徒の自律的な活動を促進し、自信をもてる生徒を育成する。
- ・各種学校行事等を通じて、生徒が協働して創り上げる喜びや達成感、成就感を体験させる。
- ・文武両道を念頭に、生徒が主体的に考え行動し、互いに高め合える部活動運営を実現する。

➡学校行事や部活動等も完全に従前に戻り、部活動加入率や学校満足度も漸増している。部活動では全国大会や関東大会に出場する選手も出るようになり、少しずつ全体の活気も増している。3年生では文武両道の模範となる生徒が大学受験でも成果を上げ、後輩達にも大きな刺激を与えてくれた。引き続き、生徒の自律的な活動を促し、互いに高め合う集団づくりを目指して取り組んでいく。

⑥ 安全・安心な環境づくり（評価B）

生徒の心身にわたる健康・安全に十分配慮し、安全・安心な学校生活、学校環境を実現する。

- ・生徒一人一人の心身の健康維持を重視し、メンタルケアや自殺防止対策にも力を入れる。
- ・教育相談体制の充実を図るとともに、特別な配慮を必要とする生徒を適切に支援する。
- ・体罰等の服務事故を起こさない校内体制を整備し、危機対応や防災・安全教育の充実を図る。

→今年度から教育相談委員会を定例化し、生徒情報を組織的に共有できる体制を整えた。本校は昨年度(R6)からSCが複数配置となっているが、男女のSCがうまく役割分担して生徒のメンタルケアに対応している。相談件数の増加傾向からも、生徒が相談しやすい環境づくりを引き続き継続・発展させていくことが重要である。

⑦ 募集・広報活動（評価C）

本校の良さや特徴、生徒の活躍の様子を積極的に情報発信し、志願者を増加させる。

- ・各種の情報メディアを有効活用し、最新の学校情報や生徒の活躍を適時・適切に発信する。
- ・学校説明会等では有志生徒による学校案内を実施し、生徒の生の声を広報活動に反映させる。
- ・体験的な募集活動を充実させ、外部説明会や塾訪問等の広報活動にも一層力を入れる。

→今年度は入学者選抜の倍率が例年になく低迷し、学校として最大の課題であるとの危機意識を強くもっている。募集・広報活動については例年並みの取組ではあったが、授業料無償化や近隣校の高倍率という外的要因だけでなく、本校が中学生や保護者の期待に正対し、学校の良さや特徴をしっかりと伝えるようなアピールをできたかどうかを検証し、次年度の募集活動の大幅な改善につなげていく必要がある。

⑧ 学校経営・組織体制（評価B）

業務効率化を進め、教職員間の情報共有を図ることで、組織的で円滑な学校経営を実現する。

- ・各分掌主任等を中心とした組織運営と、正副担当者がサポートし合える業務体制を構築する。
- ・経営企画室と職員室が情報共有を図り、予算管理等を含めた適正な事務執行を実現する。
- ・教職員の働き方を改善し、個に応じた教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

→働き方改革についての考え方は職場内に浸透しており、男性の育業取得も進み、超過勤務傾向のある教職員も大きく減ってきた。業務の効率化と組織的で円滑な学校経営については道半ばであり、構成メンバーが変わっても速やかに従前の業務が滞ることなく動き出す組織づくりを引き続き進めていく。

3 今年度の総括と次年度への展望

- ・全ての教科科目をしっかりと学習し、共通テストフル型受験、現役国公立大学を目指す教科指導、進路指導は定着しており、現役国公立大学合格については一定の成果を上げた。次年度は、難関国公立受験について、特に一橋、東科大の対策を強化していく。また、昨年度から本格稼働したチームメディカル（医学部等を目指す生徒集団）や探究活動の成果を活かした総合型選抜等による合格者は増加しており、この流れを継続させる。進学実績が募集活動に与える影響が大きいことを踏まえ、教育の質の向上を一層図るとともに、生徒の日常の教育活動や探究学習、協働的な学びの様子をタイムリーに発信し、中学生や保護者、塾向けの募集広報活動を更に活発化させる。
- ・個に応じた指導の充実という点では、DX加速化推進事業を生かしたICTの利活用、担任や進路指導部による組織的な面談指導、SCと連携した教育相談体制の充実など、都立高校として最も手厚いとも言える生徒指導・支援体制を整えることができています。いじめや不登校の未然防止も含めて、生徒がお互いを尊重し合い、生き生きと自分の個性や特徴を伸ばせる学校環境を次年度も実現していく。